

おはなし散歩道

黒船のネズミ

八王子市 池田美絵

浦賀沖に黒船がやってきて以来、幕府も町人もこれまでの生活が脅かされるのではないかと心配して、大騒ぎをしていた。そんな噂を横浜からきたネズミに聞いた八王子のネズミ・チュウ太は、「異国なんかは負けていられるものか!」と、鼻息を荒くしていた。

ある日、横浜に絹を運ぶ荷車が出ることを知ったチュウ太は、「いつちよ、黒船とやらを見てやる」と、荷物のあいだにしのびこんだ。

峠をこえること一昼夜、横浜の海に着き黒船を目の当たりにすると、悔しいけれども人間たちが騒ぐ理由もわかる気がした。真つ黒な船体はまるで山のように、もくもく上がる蒸気は、巨大な生き物のようだった。

圧倒されていると、浜から黒船に向けて小舟が出発しようとしているのが目に入った。チュウ太はすばしっこく飛び乗ると黒船に向けて出発した。

近くで見る黒船は、チュウ太が押ししてもひっかいてもびくともしなかつた。木でできた日本の家とはわけがちがう。ふつとため息をついてチュウ太が座り込んでみると、鉄の扉がぐわーんと開いて、中から異人が出てきた。見つかつてはまずいと、チュウ太はあわてて扉のすきまから部屋のかなかに逃げ込んだ。

そこは、食糧庫らしかった。赤くて棒状のかたまり、黄色い豆腐みたいなものが並んでいる。濃厚なにおいを発し、初めてかぐにおいに胸が苦しくなるほどだった。小魚

や芋を食っている自分とは雲泥の差だ。そのときだ。

「オイ!」  
と、背後から野太い声が聞こえた。ふりかえると一匹のねずみが立っていた。チュウ太よりも一回りも二回りも体が大きく、ひげもぴんとたっている。

「オマエ、ナニシニキタ! オレサマトシヨウブシヨウジャナイカ!」  
と、横柄な態度で近づいてきた。チュウ太は、ほんとうは足がふるえるほどおっかなかったのだが、ここでおじけづいては日本のネズミの名がすたると見栄をきつた。

「ふふん、お安い御用だ。売られたけんかは買うのが男よ!」  
そして、「はつけよい!」と、すもうをまねて黒船のネズミに突進する。だが、何度ぶつかっても相手の腹にはね返されてび



くともしないのだった。相手は不敵に笑っている。「ちつくしよう! こいつを倒す方法はないのか。そうだ!」  
正攻法では無理だと思つたチュウ太は、低く体を構え、相手の後ろ足を

もつと簡単に倒せたんだがな」

やせ我慢をして言い放つた。すると黒船のネズミが食料の並んだ棚を指すではないか。

「タツタヒトリデフネニキテ、オレサマニシヨウブライドムナンテ、ミアゲタコンジョウダ。ココニアルモノヲタツプリアベテユケ」  
「ほんとにいいの?」  
チュウ太が驚いてたずねると、黒船のネズミは「ハラノヘツテイルヤツト、シヨウブシテモモシロクナイカラナ」とワインクをしてみせた。

そのあと、異国の食料をたらふく食べたチュウ太は、「なんか力がついた感じ」と、ほんと自分の腹をたたいた。

「マタ、ニホンノスモウトヤラヲオシエテクレヨ」  
「お安い御用だ!」  
外では人と人がにらみあっているも、ネズミ同士はなかよく遊んでいた。(さし絵・小出 茂)

御本尊・飯縄大権現様との御縁を深める

大本堂内「結縁」内陣御納佛「奉安のご案内

高尾山では、御信徒様と高尾山御本尊・飯縄大権現様との益々の御縁が結ばれますように、大本堂内陣に御本尊様の御魂を宿した「内陣御納佛」の奉安を皆様にお勧め申し上げます。

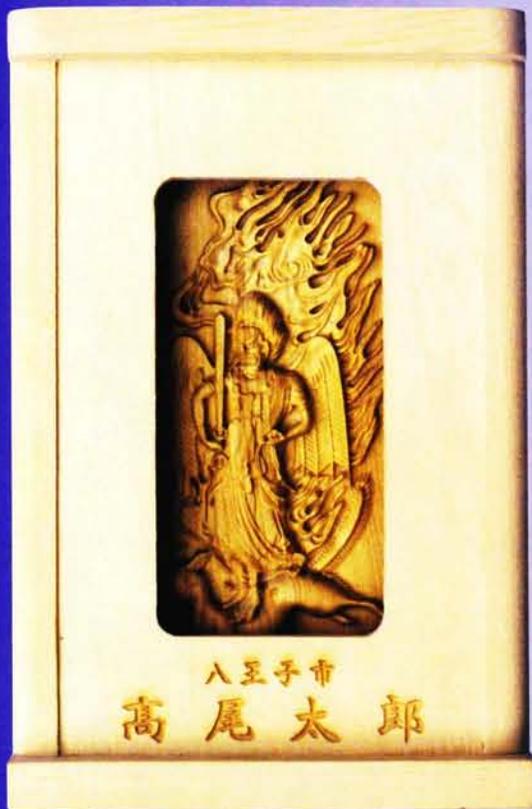
お申し込みになると、御納佛との尊い結縁のしるしとして御芳名を刻み、大本堂内陣壁面に奉安され、幾久しく御繁栄を祈念するものであります。

また、御納佛が壁面に満たされますと、その都度、内陣格子奥に移し大切に安置されるものであります。

御納佛冥加料

一体

五万円



高さ13.5センチ 横幅9センチ

特別精進料理

「そば御膳」のお知らせ

特別精進料理「そば御膳」が開催されております。大広間でのお食事となり、ご予約無しでご案内いたします。食材に限りがありますので早めの来山をお願いいたします。

期間 八月二十八日(金)まで  
営業日 平日のみ(団体予約多数の場合は実施しないこともあります。ご了解下さい)

価格 千八百円  
※ただし、四月二十六日〜五月六日の大型連休期間につきましては、価格や実施日の変更になる場合もありますので事前にお問い合わせ下さい。



特別精進料理「そば御膳」 1,800円 (11:00より受付開始)